

講義名	研究演習Ⅱ（商）				
講義コード	15407	授業形態		開講期・曜日・時限	通年 月曜日 5 時限
担当教員	長坂 泰之			ナンバリング・コード	
学部・学科				演習分野	
全学部全学科				商業まちづくり：商業経営（個）とまちづくり（集積）	
概要説明					
長坂ゼミナールは、まだ5年目の若いゼミです。 ■概要 長坂ゼミナールでは、 ①商業を中心に、②社会の現場を五感で感じることを通じて、③みせの価値、まちの価値、そして④自分自身の価値について、教員、ゼミ生とともに学びます。このような方針なので、 ⑤ゼミを通じて自らの可能性を信じて意欲的に行動しようとするチャレンジングな学生を求めます。 具体的には、 ①商業を中心に・・・小売業、飲食・サービス業、ショッピングセンター、商店街、中心市街地等を対象とします。 ②社会の現場を五感で感じる・・・可能な限り現場に出てキーマンに会い、そして実体験を聞く、真実は教科書ではなく現場にあります。 ③みせの価値、まちの価値・・・厳しい経営環境の中で、生き残っているみせ、まちには、必ず差別化された価値が存在します。そこから学ぶことに意味、意義があります。 ④自分自身の価値・・・③の現場、あるいは教員、ゼミ生間との活動を通じて、自分自身の価値を考えます ⑤チャレンジングな学生を求める・・・「失敗を怖れないこと」が入ゼミの大きな条件です。過去がどうだったかは問いません。「これまでのことはどうでもええやん」。人生100年時代。これからの80年を充実させることが大事です。 ■社会共創活動 社会との関わりを持つ「社会共創活動」に積極的に取り組んでいます。大学から認定を受けて補助をいただきながら活動する活動です。 ■ゼミ合宿 ゼミ合宿を実施します。合宿の地域・内容は教員とゼミ生と相談しながら決定します。費用は一部大学の社会共創活動補助金が出ますが、自己負担が発生します。毎年、ゼミ生総意で計画を決めています。 ■就職状況 長坂ゼミの卒業生は就職活動において、ゼミでの活動を「学チカ」としてアピールしています。 なお、所要の感染予防措置を講じた上で、原則としてすべての授業を対面授業で実施します。新型コロナウイルス感染症の状況により変更がある場合には、別途連絡します。					
主な卒業論文のタイトル					
（ゼミ生と相談しながら希望するテーマを採択しています） ■大規模災害被災地に対する復興・復興期における流通科学大学による支援の可能性（ボランティア活動をイメージして） ■マイクロツーリズムを見据えた神戸市が観光都市として選ばれるための条件の検討 ■現在の人材派遣業界（携帯販売）の動向と今後について ■日本におけるヤングケアラーの実態及び今後の在り方について ■国内eスポーツ市場の新たな価値についての研究 ※卒業論文の作成は任意ですが、2年次、3年次に目的を持って活動したゼミ生は、その集大成として論文をまとめることは容易だと思います。					
教員よりの要望					
■社会はどんな人間を求めているのでしょうか？私たちの価値ってなんなのでしょうか？私たちの役割ってなんなのでしょうか？職人・芸術家などの磨かれた「個性」を持つ職業の方でも社会との関わりを断つことはできません。 ある組織の新人採用の面接官は、以下のような視点から社会への適合力を判断すると言っています。 ◆学生時代に自分のやりたいことをやってきたか？→前向きな思考力と行動力 ◆学生時代に様々なハードルを越えてきたか？→ストレスに対する適応力 ◆学生時代に様々な活動に参加してきたか？→チャレンジ精神とコミュニケーション能力 みなさんの人生はこれから。みなさんにはこれからたくさんのチャンス、何度かのビッグウェーブが訪れると思います。そのチャンスをしっかりと掴み取ることでできるか。それを可能とするのは皆さん次第です。そのためには、学生時代にたくさんチャレンジをして、たくさんの失敗を経験することがとても大事です。 長坂ゼミは活動が活発です。ただしコロナ災禍においては、その状況を踏まえたうえで適切に活動をします。 最後に、長坂ゼミはチームでの作業をすることが多いので皆勤を基本としています。欠席しがちな学生は選択をしない方がよいと思います。					
選考方法					
原則として、本ゼミの研究演習Ⅰの単位取得者が履修者となります。					

評価方法	
ゼミは基本的には①対面型講義で実施します。コロナ災禍に伴い講義方式の変更の場合は、オンライン方式（②オンデマンド又は③LIVE）も取り入れます。 ①③の場合は、対面・オンラインに限らず、ディスカッションでの積極的な姿勢、目標に対する取り組み姿勢など、失敗を怖れない積極的な姿勢を高く評価します また、集団への貢献度も高く評価します。 欠席、遅刻、早退は原則として認めません。②の場合は、ディスカッションはできない可能性が高いので、課題に対する提出物、目標に対する取り組み姿勢、失敗を怖れない積極的な姿勢を高く評価します。また、集団への貢献度も高く評価します。リアルではありませんが決められた時間にゼミを受講するようにしましょう 以上のように、「講義形式の変更があった場合には、成績評価方法に変更がありますので注意をしてください。なお、何らかの理由で通学が困難な者がある場合、代替措置（対面ゼミのLive配信、ゼミを録画しオンデマンド配信、その他履修者の不利益にならない措置）を講じる予定です。	
教員英字氏名	研究室
Yasuyuki Nagasaka	研究棟Ⅰ3階 306研究室
最終学歴	
横浜市立大学 大学院 都市社会文化研究科 博士後期課程修了	
学位	
博士（学術・都市社会文化専攻） ※博士論文：東日本大震災の津波被災市街地における商業集積の復興	
主な研究活動・社会活動・研究業績	
■著書 ◆中心市街地活性化のツボ（2011年） ◆100円商店街・バル・まちゼミ（2012年） ◆失敗に学ぶ中心市街地活性化（2008年） ◆復興 陸前高田 セロからのまちづくり（2022年） ■論文・学会報告 ◆気づきの教育の実践と効果～学生のカフェ空間への出店体験を通じて～（流通科学大学紀要論文／2022年度、予定） ◆東日本大震災の津波被災市街地における商業集積の復興プロセスに関する研究（横浜市立大学大学院都市社会文化研究科博士論文／2020年度） ◆コロナ禍は商店街にいかなる影響を与えたかー緊急事態宣言期における神戸元町商店街実態調査よりー（流通科学大学紀要論文／2020年度） ◆東日本大震災の復興・復興期における商業集積支援策に関する研究ー阪神・淡路大震災との比較を中心にー（日本都市計画学会／2018年） ◆次代に向けた中心市街地の商業活性化事業の在り方についての研究（文教大学湘南総合研究所／2017年） ◆「中小小売商と大企業との共存と協調」～中小商業に対する近年の商業振興政策と中小事業者の取り組み～（韓国流通学会学術大会／2018年） ■論文・学会報告 ◆地域活性化伝道師（内閣府） ◆陸前高田市復興アドバイザー ◆陸前高田市まち・ひと・しごと総合戦略策定会議委員 ◆中小機構中心市街地サポートアドバイザー ◆関西ネットワークシステム（K N S、産学官民連携組織）世話人 ◆近畿中心市街地活性化ネットワーク研究会組成人 ◆スヒックエリアサポーター	
趣味・特技	
◆テニス（学生時代はスクールのコーチだったかも） ◆バル（バル街）巡り（日本全国に飲食店とヒトを繋ぐイベント「バル」がたくさん開催されています。なかでも特に関西に多いです） ◆全国の仲間に会いに行くこと（全都道府県に訪問各地にたくさん仲間がいます） ◆まち歩き、路地裏・盛り場探訪（北海道から沖縄まで、全国津々浦々のまちを歩いています）	
所属	
◆中小企業診断士（経済産業省） ◆地域活性化伝道師（内閣府）	
所属学会	
◆日本商業学会 ◆日本都市計画学会 ◆日本中小企業学会	
専門分野	
◆流通政策 ◆商業まちづくり、中心市街地再生、タウンマネジメント、エリアマネジメント ◆中小企業支援、中小企業経営診断、中小企業経営、起業・創業支援 ◆震災復興支援（阪神・淡路大震災、東日本大震災他）	
担当科目	
◆研究演習関連 研究演習Ⅰ、研究演習Ⅱ、卒業研究、専門基礎演習 ◆流通関連 流通科学入門、流通概論、流通政策、教養特講Ⅰ（流通）、教養特講Ⅰ（マーケティング学科へのいざない） ◆経営関連 中小企業経営論、ベンチャービジネス論	
備考	
【過去の社会共創活動＝大学から認定を受けて補助をいただきながら活動したゼミ活動】 ①2011年 千林商店街100円商店街出店及び後方支援並びにダイエーの歴史文化展示 ②2020年 元町商店街連合会の消費者アンケート調査等各種アンケート調査及び提案の作成 ③2020年 新型コロナウイルスの影響についての緊急アンケート（元町商店街連合会） ④2020年 千林商店街におけるダイエーの歴史文化展示(クイズ) ⑤2020年 『社会人基礎力育成グランプリ』参加(特別賞受賞) ⑥2021年 千林商店街におけるダイエーの歴史文化展示(クイズ) ⑦2022年 神戸野エリアKINKAKEプロジェクトとのコラボレーション ⑧2022年 高田松原周辺に実施する観光客にいがにしてまちなかに来ていただく ⑨2022年 神戸元町商店街連合会未来会議「元町魅力アップ事業（仮称）」に係る産学連携の取り組み	
実務経験の有無及び活用	
実務経験あり。 教科書「中心市街地活性化のツボ」に掲載されている20以上の事例は自ら実務として関わった事例もしくは現地でのヒアリングをもとにその成功要因などを分析したものです。 また、著書「復興 陸前高田」は津波被災地陸前高田市の被災から復興までを被災地の皆様とともに歩んだ道のりを記録したものです。 実務経験は、国の政策実施機関である独立行政法人中小企業基盤整備機構に30年以上在籍、中小企業の融合化、人材育成（中小企業診断士養成、中小企業経営後継者育成等）、インキュベーション運営、流通団地、工業団地、中心市街地、商店街、共同店舗、中小小売業の経営診断の経験あり。流通の現場の実態を伝えます。経済産業省登録中小企業診断士。内閣府地域活性化伝道師。	